

・雨でも休まず、217回、218回・

### 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動：7月 7日（第一土曜日）：小原本陣の森・担い手育成、技術向上  
\*ベテラン向き 参加費400円、弁当持参
  - ・定例活動：7月15日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動  
\*一般むき 参加費400円、弁当持参
  - ・臨時活動：7月21日（第四土曜日）：若柳嵐山の森・日帰りサマーキャンプ in 相模湖  
\*主催：Forest Nova、主に学生対象、森林活動を伝えるために・  
ムササビ観察やホタル狩りも試みる。  
参加費：学生1200円、一般2000円
- 
- ・初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
  - ・服装：汚れても良い服装、着替え・長袖・夏は黒色を避ける・滑らない足元
  - ・持参：成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、食器（箸・碗）飲料水
- 
- ・注意事項：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

### 市民運動は行政と、どう関われば良いか。

例えば、水源環境の保全再生・県民会議：この会議の目的は、水源政策に県民の意思を反映し、施策計画・事業実施に県民が、直接参加することです。過日5月16日の「第一回県民会議」で県から 1) 施策調査専門委員会、2) 市民事業等審査専門委員会 が提案されましたが、その人選について県民側から異見が述べられ、両者間の構造の隔たりが浮き彫りになっていました。

市民側は「活動の意味」に拘り、行政側は「組織の在り方」に力点がありました。それならどうすれば良いかですが、市民側は生活者の立場から「公の担う行政の立場に一步踏み込むこと」、行政は「生活者の意識・行動を共にすること」に掛かっていると思います。お互いの力量・限界がありますが、解決のために共に行動しつつ信頼感を構築することが前提となります。

森林について言えば、森外にいた市民が森林行政の求めるものは何かを意識しつつ、森内に入れば理解し合えるだろう、と言うのが当会の考え方です。時代の変遷と共に森林政策も変わらねばなりませんが、生活者である森林NPOは、森林のあり方を検証し解決の途を行政に提案できて始めて、説得力のある提言になると思います。・・・ 関連：例えば、入会地の問題・文中

心地よい初夏の日差しが緑に映えて美しい。

本日、県の森林課から見た「小原本陣の森」をどのような方法で整備を進めれば良いかを県北県政総合センター、森林課から指導に来てもらった。参加者9名。

### \* 整備対象地区の選択

- ・ 森林整備は、トラブルを避けるために土地所有者の境界線を明確にすることが前提。
- ・ 共有林は、足元を固めると言う意味で全ての権利者の同意が必要である・・・  
これに付いては、不在権利者や権利放棄者がおり、柔軟に考えることが求められる。
- ・ 小原の森の入会地は、地権者が相模原市で地上権(植えた木)は植えた人に有るから手を入れる時には、地上権者の了解がいる。

### \* 作業場所の確保・整備

- ・ 伐倒する時は、回りの灌木を伐り見通しを良くし、逃げる場所を作っておくこと

### \* 除伐・間伐

- ・ 昔は根元で横伐りしたが今は、ツルをつけて安全を期している、高伐りはしない。  
切り株の高さは15~20cm。高伐りは見た目に悪く邪魔になる。
- ・ 地伐りは危険、逃げ遅れる。高伐り後、2度伐りが良い。杭に利用するなら高伐りは可。

### \* 作業配置

- ・ 落石他、キケンな傾斜度30度以上の作業は避ける。縦に並んでは作業は危険。

### \* 伐採木・枝の処理、土止めの仕方

- 1) 等高線に揃って並べる
- 2) 伐採木や伐採枝は立ち木(生木)には出来るだけかけない。虫や腐りの原因となる。  
切り株にかけるのは良い。5年から10年は持つ。  
杭(伐採枝で作れば易しい)を打ち、それにかける。
- 3) 土止めは出来るだけ低くする。積みすぎないこと。



森林簿と測量図を照合する



小原本陣 森上部の整備林

理由イ、水の流れを作らない・・・  
隙間に小枝、木の葉をつめるのは良い。

ロ、病虫害の原因になる  
ハ、地表高が高くなり山火事  
のときに燃えて地表火になる。

根元に置いた枯れ木・枯れ枝が立ち木を燃やし、木を枯らす原因になる。

**\* 尾根沿いの防火帯：昨年の山火事調査結果：**

- ・尾根道幅は1 mでも火は止まっていた。尾根防火帯は2 mもあれば良いだろう。
- ・尾根では風が吹き上げるので、防火帯は狭くても有効である。
- ・日本での山火事は、地表火が一般的、火床高が1 m以上だと数年で枯れてしまう。
- ・この点からも伐採木や枝を立ち木にかけるとは良くない。  
やむを得ず掛けるときは成るべく低くかけること。杭か切り株にかけると良い。

**\* 害虫被害拡大防止**

種の違う木を1列でも植えると良い。虫は木に移る時、一度地面に降りて隣の木に取り付くが目的の木に出会わないと、元の木に戻るといわれている。

**\* 補助事業：兎も角、怪我のないこと・・・基本的に忠実であれば怪我にならない。**

**\* その他の指導**

ニセアカシアは、傾斜しやすく根が浅いので、風でパッタと倒れるから、ノリ面保護の点から伐った方が良い。

**\* 臨機応変な対応をすること**

荒れている山で間伐すると、陽当りが強すぎてかえって地面が荒れることが多い。  
この場合、地面の乾燥を防ぐ等のため、木をばらして地表を覆うようにすると良い。

**\* 施業計画を作る時、生産林、景観林、生態系多様林にするか、方針を立てて取り組む。**

**新たな課題、共有入会地：小原本陣の森・共有林：地権者が行政で地上権者が地域住民**

昭和30年～45年にかけて全国規模で植林運動（拡大造林）が展開された。相模湖町でも町所有の森（地権者）に地域の人々が建材になる杉・桧を植えた。将来、杉・桧（地上権：材）は、利益をもたらす筈であった。輸入材が入ってくるようになって手が入らなくなり造林地は、荒れるに任されている。当会が、次に取り組む予定の「私有林：中里山」の隣接地は、「共有入会地」である。地図上でも、森の中でも境界線（相林境）がほぼ確認できたが、法律は双方が立ち会って境界線を確認し合わねば、森に手を入れてはならないと言っている。

共有地は、整備組ごとに組長がいて、全体を管理することになっている。木材が売れないから森林整備ができないと同時に組長も齢を重ねて死亡し、後を継ぐ者もいないので立会人がいなくなっている。

立会人がいなくて双方の合意がなければ、この森の手入れはできず荒れるに任せねばならないのだろうか。私有地でも同じことが言える。連絡の取れない不在地主の管理はどうか。私有財産の取り扱いについて、行政だけで決めることは出来ない。地域に密着した地域林政委員会・農政委員会のようなものが時代の趨勢に素早く反応して問題解決に当らねばならないと思う。

このような場面でも公と民をつなぐ市民団体・森林NPOの働く場面がある。森林NPOには、公の出来ない部分の解決を期待されている。森林NPOは、森作業だけが役目ではない。

[夏草・強者・森のコンサート]

梅雨の時期でも今日も晴れ、水不足もチョッピリ、気になる今年。

一般参加 15 名、神奈川県企画部との協働事業の“緑のダム体験学校”には15名と相模湖町から2名、学生連合Forest Nova11名、東海大3名、日大桜井研究室17名、計62名



朝、梅林入り口から森に入ろうとしたら道がない!。そう、初夏の雑草が凡て、道を覆ってしまってお花畑班が作った階段の小道を足探りで歩く破目。来ました!、夏草共のツワモノの季節。この日も、夏草のような若者たちの姿が目立ち、頼もしい!。

朝の挨拶で作業リーダーの川田さんより“夏の自己管理のご注意は、イ、熱中症対策と  
ロ、蜂刺され”について。

塩分で体内での役割など具体的な説明。ってな訳で今日は「森の下草刈、お花畑の草抜き」が、メイン作業。

広葉樹の森の下草刈りは、常連の東海大生たちと一般参加の人たちが薙刀(なぎなた)のような大鎌で刈っていた。多様多種の植物の宝庫のこの場所は、「緑のダム体験学校」の学習材料としても重宝されていて、残すものと残さない物の選別も必要で手間がかかってしまう。でも休憩中に、森の植物に詳しい御仁にいろいろと教えてもらえるのが、また楽しみの一つ。

養蜂班も新天地をここに移すために黒川班長が孤軍奮闘して、その下準備のために長方形の巣箱を養生していた。不覚にもわたくしめ、蜂の巣は「丸」と思っていたが一つ、勉強させて頂きました。(注：養蜂用の巣箱は長方形でも箱の中に丸い巣を作る。蜜蜂の巣は、やはり丸が正解)

日大桜井教室は、幾つかの小区域に目印をパンチングしてモニタリング調査の準備をしていた。学生たちのグループForest Novaは、ファールブル佐々木氏の指導で、木時計づくりの準備。

さて、この日のお昼休みの特別メニューは、緑光の降り注ぐ栗林の中で「森の中のミニコンサート」。ゲストは「たこ焼きドラマー」と言う珍しいキャッチコピーで売り出し中のボーカリスト・清家ミエコさん。音楽の勉強をしたいばかりにお金がないからと、博多 東京を自転車の上京してきたと言うパワーの持ち主。この日は雨を予想したので、雨にまつわる歌を準備してきたが快晴。でも、雨の歌でも透明感のある明るいいリズムで歌い上げてくれた。

追記：森の音楽会では、鳥のさえずりが一段と賑やかになるし、木々も聴衆になると聞いていた

が、正しく、そんな感じだと清家さんが言っていた。活動後は、一年の結果とこれからの一年の計画を相談する、第5回、総会に出席した。

**第5回：通常総会（報告）** 日時：2007年6月17日（日）午後4時～6時30分

場所：相模湖交流センター 2F 研修室

参加：44名：委任状共

議題：第一号議案 第五期 事業報告・収支決算  
第二号議案 第六期 事業計画・収支予算

第五期実績			第六期予算・計画骨子			
B/S		P/L		P/L	備考	
資産	3.945	総収入	14.124	総収入	12.679	・神奈川県・相模原市
負債	17	総支出	10.196	総支出	9.415	林業行政と協働強化
合計	3.927	次期繰越	3,927	次期繰越	3.164	・担い手育成

第三号議案 役員改選：2名退任 3名選任

第四号議案 定款付則改定：学生会員追加

報告 事務局：石村

.....

**総会終了後** 館内喫茶：ル・ボンでの懇親会は、大いに盛り上がった。学生等の Forest Nova を交えて肩を組んで「森を守る誓いの歌」を合唱して解散した。

**臨時活動1：モニタリング**

日本大学・森林資源科学科：6月23日（土）

定例活動日の遣り残した調査の続きに桜井教授のご指導で、日大生が森に入った。

写真は、木ごとにナンバリングして成長量や周囲の植生の経年変化を記録して、森林管理計画に役立てる。このように当会は、活動内容に厚みが出ている。



**臨時活動2：伐木（チェーンソー）講習会：6月23日（土）・24日（日）**

森林NPOに取ってチェーンソーは必携技術、学科8時間、実技8時間を14名が受講した。23日は、駅前桂北公民館でミッチリと座学、24日は森の中で実習。午後から雨になったが“雨でも休まず・・・”、返って雨が、実習講座の熱気を冷ましてくれて最後までやりとげた。既にチェーンソー許可証を持っている者、3名を入れて合計17名が許可証保有者になる。



## 報告 1、甲州古道：相模原市 + 国交省相武：6月12日（火）

5年前、相模湖町から受託した道標4本設置から始まった「緑のダム：甲州古道復活プロジェクト」は、相模湖町が相模原市と合併して、相模原市は観光資源として有望だと目して地域活性化の目玉に取り上げてくれた。今年に入って、国交省相武事務所から「緑のダムの“甲州古道プロジェクト”と接触したい」と連絡が入った。既に、相模原市とは具



体的な話し合いに入っていることから、「別の話では当会は動けない。相模原市とご一緒に動いて頂きたい」と申し入れた。相武事務所とは4年前に一度、話し合ったこともあって、スンナリと事が運んで12日、相模原市との合同会議となった。

ここで初めて国交省の狙い全体像がハッキリしたのだが、「名称：日本風景街道戦略会議」と称し、トップは奥田 碩氏（経団連名誉会長、国交省交通審議会・会長）であり、「～美しい国土景観を目指した国民的な運動～」と言う事だ。「国民的な運動」と言う限り、当会に声が掛かるのは当然。何せ、“どうも有るらしい”と言う噂を聞いただけで「頭から藪に突っ込む」のを得意として何箇所も藪の中から痕跡を探し出している。挙句の果てに橋架けもすると言うこり様でも有る。また、舗装を剥がして石畳の古道を見つけたりしている。

現・甲州街道（国道20号線）は、相模湖町から大月まで、狭隘な相模川渓谷を縫って建設されているので、それと平行して藪の中にある「甲州古道」は、まるで宝物が埋まっている感じで遺跡・文化・伝承・芸能・古文書がある。発掘の緒に就いたばかりだが何でも「その内、世界遺

産に登録するぞ！」と吼えている者もいる。

## 報告2、準備会：川崎ネイチャーフェスティバル（10月7日予定）



「森林と都市をつなぐ；木を使うことは、森を守ること」をテーマとして川崎JR貨物跡地での神奈川県・山梨県・川崎市後援による広報活動は4回目に入る。

今年は、神奈川県の森林の20%、上水の60%を占める旧津久井四町と合併したことで、その管理の重責を担うことになった相模原市にも後援をして頂く計画であ

る。そうすると「木材生産県山梨＋木材消費県神奈川」と「水供給地相模原＋水消費地川崎」が相模川流域を一本の線で繋がることになる。相模川を絆として命の水を育む相模川流域の森。これを源として「相模川流域経済圏」と言う構想図も描けるようになる。

「荒廃の森林を保全・再生する環境性の視点と経済性を持つ森林の再生産」をタイムスケジュールに載せるために「川崎ネイチャーフェスティバル」をそのキッカケづくりにしたいと思っている。先ず隗より始めよ：相模原市が、相模川甲斐桧と相模川相模杉を使えば「木を使うことは、森を守ること」の範を垂れることになる。そんな事を林業行政に進言している。

## 神奈川県産材と相模川流域材

文責 石村 黄仁

折りに触れて、甲斐桧が名古屋に流れて東濃桧となり丹沢杉が紀州杉に化けたりしているが、このような矛盾にメスを入れずして県産材流通が成り立つものだろうか。

相模川の源流は富士山東部で、相模川は山梨県・桂川流域の沢の水を集めて130km下流の相模湾に流れ込んでいる。相模川流域の木々は、地形・土壌・温度・湿度・生態系など相模川特有の環境の中で育っており紀州や東濃とは違う。神奈川や山梨の木材が紀州や東濃に化けて流通されているくらいなら品質には問題ない筈。それなら、紀州に匹敵する価格で相模川系丹沢杉で売れて良いのではないか。神奈川や山梨の良い木は遠くに運ばれてブランド品に化けて逆流入してきたりして、良い木は県外に出てしまうわが国の流通システムは一体、如何してそうなるのだろう。そんな仕組だから、山梨や神奈川の木材市場には品質の悪い材しか出て来ない。林業には古い歴史と仕来りが有るから急には変われないし、積みあがった仕組だから変えることは難しいが、神奈川県は折角、長期・大型の水源政策を作ったのだから頑張ってもらいたい。

森林・林業関係者は最初は、苦しいかも知れないが林業行政共々、頑張れば適切な取引が出来る筈だ。最近の日経新聞の社説に京都の吉田町森

林組合が5年間で5倍の木材を出荷できるようになって、黒字経営に転換できたと報じている。

右の写真は、当会の管理する正真正銘の神奈川県材である。当会は紀州に負けない価格で完売できた。買ってくれた人からは「良くて安かったので今年も納入して欲しい」と言われている。行政のシステムとしては、県産材と言う言い方をいなければならないだろうが「品質本意の相模川流域材の流通」の仕組つくりに取り組んでみてはどうか。

こんな仕組つくりは行政だけでは出来ない。山梨・神奈川県域越えて相模川流域をつないで、流域県民が協力し合ってこそだと思う。そうすることが安くて良い住宅建設に繋がるのだから。一介の森林 NPO に何ほどのことが出来るわけではないが、少しでもお役に立ちたいと思っている。



## 学生たちの Forest Nova のこと

昨年9月以来、相模原市の麻布大学や、信州大、千葉大、薬科大・日大・東海大など関東一円の環境関連学部に通う大学生が当会と行動を共にするようになった。ハッキリ目的意識を持って森に参加している。目つきがキラキラと信念に燃えている。表紙で案内しているが、7月21日に「もりのば企画、夏の森を感じよう！」を計画している。成功させてあげたいと思う。

連絡：滝沢 E-mail [blue-is-the-colour25@yahoo.co.jp](mailto:blue-is-the-colour25@yahoo.co.jp)

Phone 042-5342-1981

.....  
活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと.....  
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : NPO 法人緑のダム北相模

事務局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林 3 - 35 - 9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03 - 3411 - 1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : [info@midorinodam.jp](mailto:info@midorinodam.jp)

協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合